臺灣農作物害蟲防除要覽

三. 有吻目

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

總、農、試、昆蟲係用紙

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

(19×24)

カメムシ科（椿象科）Pentatomidae

此の科の昆虫は扁平な體で中庸の大さを有するものが普通である。觸角は普通5節なれど稀に4節で頭の下側より出で絲狀を呈する。單眼は2個ある。口吻は4節よりなり第2節は最も長い。楯狀部は大小があつて變化が多いが概して大形で、短かい場合でも前翅の膜質部の基部に達す、時に腹部全體を被ふものもある。翅は4枚ありて、前翅の基部は革質に硬化し、末端は膜質となりて、後縁で楯狀部に接する細長き部分を爪狀部、其他の基部大部分を革質部、末端の膜質の部分を膜質部と夫々名付けらる。
カメムシは主に植物質液體を吸收して生活する類であるが、中には動物質液體のみによるもの、又動植物両質のものにて生活するのもある。温帶地方では概して年1回の發生であるが、臺灣や熱帶地方では2回以上の世代を重ねる事が稀れでない。卵は普通樽狀を呈し一層の塊となりて産下せられる。孵化したる幼虫は著しく扁平で、其の週縁は圓く、色彩は甚だ顯著で成虫のものと著しく異なるのが普通である。脫皮を

重ねて翅芽を生じ後成虫となるので所謂不完変態である。成虫は幼虫と共に食物を攝るが、多數群棲する事は少なく、普通は單棲生活を行ふ。一種の悪臭を發するので一般にクサガメ又はヘツプリムシ等の名を以て知られて居る。此の類の成虫の中には音を發する種類がある。又雌雄異形の種類がある。即ち雄のみ頭の複眼間が前方に著しく突出して角様突起となつてゐる様な場合がある。

臺灣では現在約70種類程知られて居るが、それ等の中で果樹類の害虫として普通に知られて居るものは次の5種である。

Pentatominae

シロヘリカメムシ *Aenaria lewisi* Scott

農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

カボチャカメムシ *Aspongopus chinensis* Dallas

(ツマキクロカメムシ)

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

キベリカメムシ Audinetia spinidens Fabricius

No.

コシモフリカメムシ (キ inserted above: コキシモフリカメムシ)

Cappaea taprobanensis Dallas.

成虫　鑛物質の光澤ある青銅色で黄褐色の斑點を密布し、頭の前縁及び側縁、前胸背の周縁、半翅鞘の基部及び頭の先端より稜状部の末端まで縦走する一線は黄褐色。觸角は黒褐。前胸背の前方の黄褐斑は粗。前翅の膜質部は透明で淡黄褐色の斑紋を撒布する。腹背の上側の各節には黄褐色の一横紋がある。體の下面は黄褐色で、青銅色の斑點を僅かに散布する。肢は黄褐色、黒褐點を散布し、前中兩肢の第3跗節は暗褐色を呈する。體長12粍内外。

経過習性　年何回の世代を累ぬるか不明。柑橘の果實から養分を吸收する性がある。其の發生數は少なく、性遅鈍である。

加害植物　柑橘類。

分布　臺灣。支那、瓜哇、スマトラ、錫蘭、印度。

驅除豫防法　早朝捕殺すること。

タイワンマルカメムシ

Coptosoma cribraria Fabricius.

成虫　体は黄緑色で、黄褐色を混在し、光澤がある。觸角は淡褐色。前胸背の前半は黄褐色。頭の中央の溝、單眼の前方の凹點は暗褐色。前胸背及び楯状部には暗褐色の點刻を密布するが、前胸背の前半は點刻少なく、兩側に點刻があり、肩紋は屈折したる横線をなす。楯状部の基部は明瞭なる横線によつて恰も楯状部の如き小室が作らる。この小室の兩端は點刻を缺き黄褐色である。胸部の下面は黄褐色なれど、中央及氣門は黒色である。雄にあつては腹部第3節以下に絨氈状毛を密生して居る。体長5—6mm。

經過習性　年數回の世代を累ぬる様で、年中成虫は生存する。稻其他の植物の莖葉に口吻を挿入して養分を吸收するが、其の害は至つて輕微である。

加害植物　稻、甘蔗、豆薯、其他豆科植物。

分布　台灣、南支那、印度、ビルマ、セイロン、佛領印度支那、ジヤバ、スマトラ、シヤム。

農業部農業試驗所 1895 AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

キベリクロマルカメムシ *Coptosoma siamicum* Walker

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

コカボシヤカメムシ Cyclopelta obscura Vollenhoven

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

カボチャカメムシモドキ *Cyclopelta parva* Distant

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

グンジャウカメムシ *Dalpada smaragdina* Walker

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

コヤナカメムシ Elasmostethus membranaceus Shiraki

キシモフリカメムシ

Erthesina fullo Thunberg.

(キマダラカメムシ)

成虫　黒色で胸背、稜狀部及び半翅鞘には黄色點を密布し、頭の中央線及び側縁、並に前胸背の前縁及び側縁は黄色を呈す。觸角は黒色で第1—4節の兩側は僅かに淡黄色、第5節の基部に淡褐色を呈す、前胸背の前方1/3の黄色點は粗で、其中央には後縁に達する黄色縦線がある。前翅の膜質部は黒色、腹背の上縁には、各節の中央に黄色の横紋がある。前後兩肢の脛節の外側は翼狀に扁平となり殊に前肢にあつては大である。肢の基節、轉節、腿節の基部及び下側、脛節の中央及び跗節(第3節の後半を除く)は黄色を呈す。體の下面には黄色點を撒布し、前胸下前縁は黄色を呈す。體長24mm内外。

經過習性　年何回の世代を累ぬるか不明であるが、恐らく4—5回と思はれる。卵は葉裏に20—30粒を一層に竝列して産下される。成虫は葉面より養分を吸收するが、多くは樹幹に口吻を挿入して其處より養分を吸收する奇習がある。強い悪臭を放ち且つ性敏活である。被害は至つて少い。

加害植物　柑橘、相思樹、ナンキンハゼ、センダン、龍眼樹。
分布　臺湾。支那、印度、錫蘭。
驅除豫防法　早朝捕殺すること。

ヒメナガメ Eurydema pulchra Westwood
(タイワーナガメ)

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

マルシラホシカメムシ *Eusarcoris guttiger* Thunberg

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

No

イネカメムシ

Lagynotomus assimulans Distant.

異名 *Aenaria lewisi* Shiraki (nec. Scott.)

成虫 褐色で暗褐色の點刻を密布し、腹部は後方に至るに従って少しく細まる。頭は比較的大きく前方に突出し、複眼は僅かに突出し、前胸背の前縁に接する。觸角は5節 淡赤色又は淡褐色で、第4—5節の後半は黒褐色を呈する。前胸背は稍扁平、側縁は暗黄色、前縁近くに2箇の長方形に近い平滑部が横位され、其の内端に1箇の黒點がある。楯狀部は腹部の約2/3の長さがあって、先端は細い、基部に4箇の黒點がある。半翅鞘は腹端を僅かに越へ、革質部の前縁は明瞭に淡黄褐色を呈し、其内側は暗褐線を以て縁取らる、膜質部は淡褐色で、翅脈は褐色である。腹背は褐色、気門は黒色、肢は褐色若しくは淡黄褐色を呈する。体長13mm内外。

經過習性 本種は稲の葉又は茎上にあって、養分を吸收するが、其の害は大でない。

加害植物 稲

分布 台湾、本州、九州、沖繩。

駆除豫防法 大発生のときは捕殺するこ

ヒ。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ナガエビイロカメムシ *Megarrhamphus hastanus* Vollenhoven

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

オホエビイロカメムシ *Megarrhamphus truncatus* Westwood

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

アカカメムシ

Menida nebgalensis Westwood.

本種はDistant其他によって*M. histrio* Fabriciusとして廣く知られて居るものであるがKirkaldy(Cat. Hemip. vol. 1. p. 131)に依るとFabriciusの*histrio*なるものに同名異種ありて、本種は*bengalensis* Westwoodであると記されたる故に上記種名を使用することにした。

成虫　体は朱色で光澤がある。頭は黒色で點刻があるが下記の如き多數の朱色線がある為め全体朱色に見へる、中央線上の太き1縦線、其の両側の各太き2縦線は頭頂の前端より走って後端近に至り、何れも赤色、頭頂の両縁、前側及後側には朱色線がある。胸背、稜状部、半翅鞘には黒色の小點刻を粗布する。前胸背の前縁及側縁の前半は小點刻によって縁取られ、前方の両側に横置されて居る腎臓形紋は黒色の密なる小點刻によって顕著である。稜状部の先端近くの両側及半翅鞘の革質部の後端の両側に黒色紋がある。半翅鞘の膜質部及後翅は透明。腹背は黒色。体の下面は淡色、腹部下面の両側は濃色、胸下、頭の下面の觸角の基部近く、胸部下面の中央、前肢基部の

近く、腹部下面の両側の太き縦條、各節中央の太き點紋は黒色。肢及觸角は赤色。体長7mm.内外。

經過習性　年何回の世代を有するか不明。成虫は多数稲禾上にあるので養分を吸收すると思はれるが、其の害は至って輕微で殆んど考慮に値しない。

加害植物　稲、其他禾本科植物。

分布　台湾。支那、印度、ビルマ、ジャバ。

驅除豫防法　発見次第捕殺すること。

1895

トビイロカナムシ *Neodius depressus* Ellenreder

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

アヲカメムシ

Nezara viridula Linnaeus.

成虫　全體光澤のない鮮緑色で、複眼は黒色、單眼は赤色、觸角は緑色なれど第3節の末端、第4-5節の大部分は赤褐色を呈す。頭の外縁、前胸背の側縁、半翅鞘の前縁の基部及び稜狀部の基部の3小點は黄褐色。前翅の膜質部は透明で無紋、腹部の背面は緑色。體の下面及び肢は緑色、各跗節の下面は赤色。體長14-16mm。

經過習性　年何回の世代を累ぬるか不明であるが、恐らく5-6回を行ふものと思はれる。卵は淡緑色で20-30粒を葉面一層に竝列して産下される。成虫、幼虫共に梢部を好んで害する。性遲鈍であるが、往々多數發生して幼梢部を枯死せしむることがある。惡臭を放つ事は他の種と同樣である。

加害植物　柑橘類、胡麻、稻、木藍、田菁、莚麻。

分布　臺灣。支那、馬來群島及半島、印度、アフリカ。

驅除豫除法　早朝捕殺すること。

カバイロオホカメムシ *Poecilocoris druraei* Linné

1895
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

ミカントゲカメムシ

Rhynchocoris humeralis Thunberg.

成虫　鮮緑色。頭は前方に突出して黄褐色を呈す。中央の縦線は淡黄色で其の両側は黒色となる。口吻は頗る長く、腹部の第2節の末端に達す。觸角は黒色なれど第1節の上下の両側は淡黄色を呈す。前胸背は側方に突出し、其の側角の先端は鋭く尖り少しく後方に向ふ。楯状部は腹部の2/3の長さあり、半翅鞘の基部には大小2個の黄褐色紋がある。前翅の膜質部は黒色で光澤があり、腹部背面の各節の後縁の両端は鋭く、刺状に突出して黒色を呈す。體の下面は淡色、胸腹部の中央部は梁状に隆起し、前胸に於けるもの殊に著しい。気門は黒色。肢は體と同色なれど跗節は黒色を呈する。體長23mm内外。

卵　淡緑色、球形で表面平滑。10-20粒を葉裏に一層に並列して産下される。一粒の直徑1.5mm内外。

幼虫　淡黄で成虫に類似して居るが、背面に黒紋がある。

經過習性　年何回の世代を累ぬるか不明である。成虫、幼虫共に果實の養分を吸收

す。本種の加害を受けた幼少な果實は落果すと稱せられて居る。果實の無いときは葉より養分を吸收する。本島産柑橘害虫の椿象中最も害の大きなものである。

加害植物　柑橘類。

分布　臺灣。支那、暹羅、緬甸、印度。

駆除豫防法　早朝、成虫及び幼虫を捕殺すること。

クロカメムシ

Scotinophara lurida Burmeister.

農業部農業試驗所 1895 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

成虫 体は一様に真黒色で、表面には點刻を密生し、光澤を缺く。觸角突起は顯著で、先端は鋭い。複眼は稍小形であるが、側方に著しく突出して居る。觸角は5節、稍褐色を帶ぶ。前胸背の側縁の前端には側方に突出する顯著なる刺があり、側角は鈍くして極めて短い。楯状部は舌形を呈し、殆んど腹端に達する。半翅鞘は一部を現はし、黒色で點刻を密生する。腹面及肢は黒色。前肢腿節に刺を缺き、口吻及跗節は褐色、又は黄褐色、脛節は黒色、褐色又は黄褐色を呈するもの等がある。体長10mm内外。

雄の腹部尾端節は點刻ある板状をなし、背面に圓形の生殖孔を開孔するが、雌には斯くの如き開孔なく、尾節に點刻と2個の傾斜せる縦溝がある、これによって容易に區別することが出來る。

卵 壺状、平滑、下部稍圓く、上面の中央は少しく隆起する。淡黄緑色で、全面に白粉を塗附せらるゝ如く白味がある。長さ1mm. 内外。

卵は葉上又は葉鞘面に12-13粒を2-3列に

團をなして産付せらる。

幼虫（第一齢）半球形。黄色で光澤があり、胸部は暗褐色、複眼は赤色を呈する。体長1.3mm内外。

（第五齢）長楕圓形で、淡褐色を呈する。体長8mm内外。

經過習性 年5回の世代を累ぬる様である。即ち第1世代の卵は3月下旬産下せられ、5月下旬に成虫となり、第2世代の卵は6月上旬乃至中旬に産下せられ、8月上旬に成虫となり 第3世代の卵は8月上旬に産下せられ、9月上旬に羽化し、第4世代のものは9月上旬に産卵、9月下旬に羽化、第5世代は、9月下旬に産卵、11月上旬に羽化した。幼虫は5回の脱皮により成虫となる。卵期は3月―4月は6―12日間、5―10月にて3―8日間。幼虫期間は4―6月、10月にて45―48日間、8―9月にて25―41日間である。内地に於ては年1回の世代を行ふのみである。

成虫は第二期稲作收穫頃、即ち11月より越冬に入る。越冬は山野、畦畔又は其の附近の草間、土塊、藁芥の間隙内に潛伏して行はれ、翌春3月中旬より出でて加害する。

冬季移動期(越冬潜伏前)、春季移動期(潜伏所より水田に移動)には誘蛾燈に多数誘殺せらることより見れば、本種の移動は歩行にて畦畔に越冬するものもあるが、中には夜間飛翔移動するものも多数ある様に考へられる。勝又要氏(石川縣農事試験場、稲黒椿象に関する研究成績、第74-84頁、昭和5年)によると石川縣での飛翔移動は春季移動は午後7時-10時で、最盛時は午後8時前後、秋季移動は午後6時-8時で、最盛時は6時30分-7時で、即ち春秋共に日没後少時間を經過したる時刻であると記してある。

本種は此の移動期以外には殆んど誘蛾燈に集まらない。偶々集るとしても稀で、1-2疋である。産卵は葉の両面又は葉鞘面に産付されるが、普通水面上5-10cm.の部分に多い。12-13粒を1団として2-3列に産付される。孵化した幼虫は2-3齢頃までは群集して居るが、其の以後には離散する。幼虫、成虫共に、稲の養液を吸収して加害する。朝露のある間は主として葉に居るが、朝露が乾くと共に水面近くの株間に移動して、茎より養分を吸収する為め、稲は著しく被害される。本種は明治38年頃より42年頃ま

では本島北部地方に多數発生したが、甚後北部に発生を聞かない。然し近時高雄州屏東及潮州両郡下に多數発生を見るに至つた。

加害植物　稻、眞菰。

分布　台湾。沖縄、九州、四國、本州、南支那、印度、セレベス。

駆除豫防法　(1)　成虫及幼虫は朝露の乾かない内に捕殺すること。

(2)　卵は発見次第捕殺すること。

(3)　成虫に対しては早朝又は夕刻の露多きときに、煙草粉(消石灰4、米糠1、籾殻1、煙草粉2、の重量の割合にて混合したるもの)を1ha.に對し930-1130kg.を撒布すること。尚は日中にあつて田水を淺くし、柄杓又は如露にて灌水し、後撒粉を行ひ、1時間後に深水狀態として1夜放置するときは效果大である。

(4)　幼虫に対しては早朝又は夕刻露多きときに1ha.に付き煙草粉(消石灰1、煙草粉1、重量の割合て混合す)470-800kg.を赤手又は撒粉器にて撒布するを宜しとする。

(5)　老齡幼虫は捕虫網又は撒仔(ビヤシ)(舟形捕虫器)を以て歩くとも2-3回捕殺すること。

(6)　越冬中の成虫を捕殺すること。

ヒメクロカメムシ *Scotinophara scotti* Horváth

1895 AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

ミカンカメムシ

Solenostethium chinensis Stal.

異名 *Solenostethium citrii Shiraki.*

成虫 全體赤褐色。稜狀部は全腹背を覆ふ。頭の周圍、觸角(第一節を除く)、前胸背の側縁及び5個の點紋、稜狀部の8個の點紋等は黒色。前胸背の點紋は前縁近くの中央に1個、其兩側に各2個配列され、稜狀部の點紋は前縁に4個中央に近く4個横に並列さる。前後兩翅共に稜狀部の下に隱れて見へない、前翅の革質部は黒褐色、基部は赤褐色、内縁は黄褐色で透明、膜質部は暗褐色。後翅は透明なれど、先端1/3は暗褐色。體の下面は上面よりも淡色。氣門は黒色、肢は赤色なれど各脛節の上側及跗節は黒色を呈する。體長15mm内外。

經過習性 年何回の世代を累ぬるか不明である。成虫は柑橘の葉上又は果實上にあって養分を吸收する。性遲鈍である。

加害植物 臺灣。支那。

驅除豫防法 甚だ少なき種であるが故に發見次第捕殺すること。

No.

ヘリカメムシ科 (縁椿象科) Coreidae.

此の科の昆虫はカメムシ科のものに似て居るが、大體褐色に近い種類が多く觸角は4節よりなりて、頭の兩側の前縁より生ず。單眼は2個。口吻は4節よりなりて、眞直なものが普通で、第1節が最も長い。稜状部は前翅の膜質部又は腹部の半に達して居ない。肢は細長く、跗節は3節よりなる。

ヘリカメムシ類は細い體を有するものが多く、臭氣を發する事はカメムシの場合より普通著しい。凡て植物質液體を食物とするもので、害虫として知られて居るものがかなり多い。然し台灣にて果樹の害虫と認め得らるゝものは僅かに次の一種のみである。

ホシヅキヘリカメムシ

Acanthocoris sordidus Thunberg.

本種は Thunberg によつて日本産に命名されたものであつて、別に印度から馬来諸島に廣く分布して甘藷を害するものに *A. scabrator* Fabricius と稱するものがある。Stal (Berl. Ent. Zeit. p. 158, 1866) は scabrator (1803) と sordidus (1783) とを scaber Linnaeus (1863) の異名として居るが、其他の學者は各々を別種として取扱つて居る。

成虫　体は黒褐色又は暗褐色、体及肢には体と同色の小疣状の隆起があつて、それより2-3本の同色の短毛を生ずる。觸角は体長よりも短く、多数の短毛を生じ、末節は紡錘状で第3節の1/2の長さがある。前胸背の側縁は鋭く、數箇の小疣状突起があり、側角は鈍く突出するが、刺状突起とはなつて居ない。半翅鞘の膜質部は黒色。腹背は黄褐色、末端は黒褐色又は暗褐色、結合板は暗褐色又は黒褐色で基部は黄褐色、第1-5節の外縁の末端には1箇の長き疣状突起がある。各肢の腿節の末端には1箇の長き疣状突起があり、後肢の腿節は膨太し、前後兩肢節脛の基部の1紋、中肢脛節の中央

部は黄褐色を呈し、各跗節は淡色である。
体長11-14mm。

卵　赤褐色で棱状を呈し、規則正しく20-30粒を茎又は葉上に数列に列べて産下せらる。

幼虫　幼小なるものは腺毛密生して白色、触角の柄節の後半及鞭節、各肢の脛節の後半及跗節は黒色を呈し、成長したものは全体暗褐色又は黒褐色を呈する。

経過習性　年何回の発生をなすか不明であるが、夏季に於て孵化より成虫となるまでの日数は50日内外である。成虫と幼虫は茎上に混して群棲し、養液を吸收して加害するも、大害は認めない。

加害植物　甘藷、甕菜、茄子、桑、其他旋花科植物及茄子科植物を加害する。

分布　台湾。沖縄、九州、本州。

駆除予防法　(1) 幼虫、成虫並に卵を捕殺する。

(2) 多数の発生を見た場合は除虫菊剤、デリス剤、ニコチン剤等を撒布する。

~~ホソハリ(ヘリ)カメムシ Cletus trigonus Thunberg~~

アシブトカメムシ Anoplocnemis phasiana Fabricius

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

オホツモヘリカメムシ ~~Anacanthocoris~~ Homoeocerus striicornis Scott

(ショウカヘリカメムシ

Homoeocerus inornatus Stål.)

成虫 淡黄褐色で粗大なる點刻を密布する。觸角は赤色、其の末端は黄色、第1—2節の外側は黒色を呈す。單眼は赤色、前胸背の側縁は黒色で、後縁近くには側方に鋭き刺狀突起がある。前翅の革質部の外縁及稜狀部に接する處は黒色 膜質部は黄褐色で光澤がある。肢は體と同色。體長20mm内外。

經過習性 年何回の世代なるや不明、成虫は蕃石榴の果實より養分を吸收するが其の害は至つて微小の樣である。

加害植物 蕃石榴

分布 臺灣。支那、印度、緬甸。

驅除豫防法 1、幼虫、成虫を発見次第捕殺すること。

2、発生の甚だしいときは除虫菊劑、ニコチン劑、魚藤劑等を撒布すること。

Anisocorinae

モモブトハリヘリカメムシ Clavigralla spinofemoralis Shiraki

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ハリ(ヘリ)カメムシ *Cletus bipunctatus* Westwood

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

タイワンホソハリヘリカメムシ

Cletus punctiger Dallas

本種はホソハリカメムシ(*C. trigonus* Thunberg)によく似て居るが、体少しく大形で、稍幅狭く、腹部下面の點刻が密で(顕微鏡にて見て)、半翅鞘の革質部末端の紋は小さく、其の下側に普通4箇の小黒點を存すること等によつて区別することが出来る。

成虫　黄褐色で、暗褐色の點刻を密布する。頭の中央線に1縦溝がある。觸角は4節で、淡赤色を帯び、第1節及第4節は太く、第4節は紡錘状を呈する。前胸背の前縁は細く、後縁近くは廣くなつて側方に突出して鋭き刺状突起がある、其の先端は黒色である、後縁は稍鋸歯状をなす。半翅鞘は黄褐色で、暗褐色の點刻を密布し、革質部の後縁は赤色で、後端の内縁近くには2箇の白點がある。腹部の背面は大部分橙黄色であるが、或るものは基部の2節及第2-3節の外側、結合板の内側が黒色である。体の下面及肢は黄褐色、体の下面には黒色の粉状の小點を散布する。体長10mm内外。

経過習性　年何回の世代を干すか不明であるが、成虫は殆んど周年見受ける。或

虫は稲葉上又は穂上にあつて養分を吸收して居るが、其の害は極めて軽微である。

分布　台湾。支那、印度。

加害植物　稲、其他禾本科植物。

駆除預防法　大発生のとき捕殺すること。

ホソハリヘリカメムシ

Cletus trigonus Thunberg.

成虫　体は黄褐色で、暗褐色の點刻を密布する。頭の中央線に縦溝がある。觸角は4節で、淡赤色を帯び第1節は少しく太く、第4節は紡錘状を呈す。前胸背の側角は刺状をなし、鋭く突出して、黒色、其の後縁は稍鋸歯状を呈する。半翅鞘は黄褐色で、暗褐色の點刻を密布し、革質部の後端の外縁近くは赤色を呈し、後端の内縁近くには1白點を有する。腹部背面は大部分暗褐色で、末端の2節、末端の3―4節の中央部及結合板は黄褐色である。体の下面及肢は黄褐色、体の下面には黒色の粉状の小點を粗に散布す。体長8mm内外。

本種はタイワンホソハリカメムシ（*C. punctiger Dall.*）によく似て居るが、体が小形であること、腹部下面の點刻が粗であること、及半翅鞘の革質部の末端にある白紋が大で、其の下側に普通黒色の小黒紋を有せざること等によつて區別することが出来る。

経過習性　年何回の世代を行ふか未だ調査を缺いて居る。本種は極めて普通種で、

稲其の他禾本科植物の茎葉又は穂にあつて養液を吸收して居るが、未だ大害を及ぼしたことがない。

分布 台湾、印度、セイロン。

加害植物 稲、粟、麥 其他禾本科植物。

駆除豫防法 捕殺すること。

總、農、試、昆蟲部用紙 (19×24)

Alydinae

タイワンクモヘリカメムシ
(イネクモヘリカメムシ)
Leptocorisa acuta Thunberg

台中及高雄兩州下に於て水稻の穗を加害するクモヘリカメムシで、現在までに採集された標本は總て acuta であつて、varicornis は1疋も混じて居ない。然し varicornis は山野で多數採集されて居るが、水稻の穗よりは未だ採集されて居ない。從來クモヘリカメムシは數種が混同されて居た。本島產クモヘリカメムシ屬(Leptocorisa)3種の區別點を揭げる。*

1. 觸角は黑色、末端の基節及先端は黃色 ………… costalis H. S.
ヒゲクロクモヘリカメムシ(新稱)
觸角の第1節は黃褐色 ………… 2
2. 觸角の第1節の先端は黑色 …… varicornis F.
ホソクモヘリカメムシ(改稱)
觸角の第1節の先端は黑色を呈しない ………… acuta Thunb.
タイワンクモヘリカメムシ(新稱)

ヒゲクロクモヘリカメムシ(L. costalis H. S.)、ホソクモヘリカメムシ(L. varicornis F.)は何れも山野で採集され、未だ水稻を害して居たのは採集されて居ない。前者は比較的少

ないものと見へ、後者の數よりも採集されて居る數は遙かに少ない。

成虫　体は細長、觸角及肢は長い。特に悪臭を発する。体は黄褐色(生きたもので緑色)、腹背は淡赤色。觸角は長く、4節にて体長と同長か若しくは体長よりも少しく長い。第1節は太くして黄褐色で單色、第2節以下は細くして、基部は黄白色で他は黒褐色。第4節は最長で第3節の1.5倍の長さがある。体には小點刻を密布する。前胸背は長く、前縁は後縁の半の廣さで、前縁部は襟状に區劃される。肢は体と同色で、單色。体の下面は淡黄緑を呈する。体長14-18mm。

卵　暗褐色。卵形で少しく扁平、上面は僅に隆起する。長さ1mm内外。

幼虫　細長で、全体緑色を呈する。

經過習性　年何回の世代をなすか不明であるが、7-8回の世代を累ねるものかと思はれる。水稲の第一期、第二期兩作の出穗中に於て穎果上に多數集来し、口吻を籾粒中に挿入して養分を吸收する。被害された穎果は白色扁平となつて、粃となる。北部ではこの害虫の異常大発生を聞かないが、

南部では屢々異常大発生を見、大害を稲に及ぼすことがある。本種は印度、比律賓及爪哇等で稲の大害虫としてRice bugの名を以て有名である。

加害植物　稲。

分布　台湾。南支那、印度、セイロン、ジャバ、スマトラ、フヰリッピン、馬来半島、シヤム、トンキン、セレベス、ボルネオ、セネガル。

駆除豫防法　(1)　朝露の乾かぬ中に捕虫器又は手網を以て捕殺する。

(2)　附近の草原に追ひ込み、周囲より點火して焼殺する。

(3)　朝露の乾かぬ中に水盤に水を入れ、石油を滴下したるものに拂ひ落して殺す。

(4)　越冬中のものを捕殺する。

クモヘリカメムシ *Leptocorisa varicornis* Fabricius

(クモカメムシ, ホソクモヘリカメムシ)

臺灣省農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Coreinae

アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus membranaceus* Fabricius

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Coreinae

ヒゲナガヘリカメムシ *Notobius meleagris* Fabricius

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

58 アカヒゲヘリカメムシ

Pendulinus nicobarensis Mayr.

（第九版 第14圖）

本要覧第一編第75頁にショウカカメムシ（*Homoecerus inornatus* Stal）としたものは *H. striicornis* Scott (Ann. Mag. Nat. Hist. XIII, p.362, 1874) の記載と觸角の第1〜2節の外側が黒色なることに於て一致すからこれをオホクモヘリカメムシ（*Anacanthocoris striicornis* Scott）と訂正し、分布に本州、九州を追加し、支那、印度、緬甸を削除する。

アカヒゲヘリカメムシとオホクモヘリカメムシとの差異は、オホクモヘリカメムシの觸角の第1〜2節の外側は黒色であるが、アカヒゲヘリカメムシの第1〜2節の外側は黒色でない故、容易に区別することが出來る。

成蟲 淡黄緑色。体は頗る長く。粗大なる点刻を密布する。觸角は淡赤色で雄の觸角は細く、体長と同長か若しくは少しく短いが、雌の觸角は稍太く、体長より遥かに短い。觸角の第2〜3節の末端、第4節の基部は黒色、第4節の基部近くは淡黄色、先端の大部分は赤色又は黒色を呈する、單

眼は赤色。前胸背の側縁は黒色、側角は三角形に突出するが、或るものは刺状に前方に長く高く突出する。半翅鞘の革質部の脈は淡黄色、膜質部は暗褐色、其の基部は黒褐色である。腹背は淡赤色、末端は暗褐。腹面は暗褐色、胸側の各節及腹側の各節には1箇の黒点がある。肢は黄褐色。体長15mm.内外。

経過習性　年何回の世代をなすか不明。成蟲は葉上にあつて養分を吸收するが、其害は極めて微輕である。

加害植物　稲、柑橘、蕃拓榴。

分布　臺湾。支那、ビルマ。

駆除豫防法　前者に準ずる。

Alydinae

タイワンホソヘリカメムシ Riptortus fuscus Fabricius

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

No

タイワンヘリカメムシ

Riptortus linearis Fabricius.

本種はキボシホソヘリカメムシ(*R. pedestris* Fabricius)、タイワンホソヘリカメムシ(*R. fuscus* Fabricius)、ホソヘリカメムシ(*R. clavatus* Thunberg)等に似て居るが、次の諸點によつて区別することが出来る。

1. 觸角の第1節は黒色、頭側及胸側に1條の太い黄色縦帯がある……
タイワンヘリカメムシ(*linearis*)
觸角の第1節は黄褐、胸側に黄色縦帯を缺く………………………………2
2 中後胸側に數個の大きな黄色點紋がある……キボシホソヘリカメムシ(*pedestris*)
中胸側に1箇の小黄色紋を有するか又は之を缺く………………………………3
3. 觸角の第1—3節の末端は黒色である……ホソヘリカメムシ(*clavatus*)
觸角の第1—3節の末端に黒紋を缺く。
タイワンホソヘリカメムシ(*fuscus*)

成虫　体は褐色若しくは暗褐色、頭側及胸側には太い1條の黄色縦帯がある。頭は三角形。觸角の第1節は黒褐色、第2—3節の基部の2/3は赤褐色、他は黒色或るものは

第2節の全部が黒色となるものがある、第4節の基部の1/4は赤褐色、他は暗褐色、第4節は第1—3節の和よりも少しく短い。複眼の上側、單眼の内側及後頭には黒紋を有する。前胸の前方は少しく縊れて襟状を呈する。側角は短く、鋭く尖り、黒色。稜状部の先端には黄色の小疣状隆起がある。頭部、胸部及腹部の下面は黒色。腹部下面の両側の大部分、第1節の大部分、第2—3節基部の中央の1紋は淡黄色。腹背は橙黄色、結合板の大部分は淡黄色、第4—6節に黒色の大紋がある。半翅鞘の革質部の外縁の外半は赤色。後腿節の後半の後側には5—6箇の歯状突起があつて、末端近くの2箇は最大である、この最大歯の後方には更に3—4箇の小歯がある。体長15mm内外。

經過習性　年何回の世代をなすか不明である。本種は成虫、幼虫共に主として荳科植物にあつて加害するのであるが、禾本科植物の稲其他にも加害する、然し其の害は輕微である。

分布　台湾。印度、セイロン、ビルマ、馬来群島。

驅除豫防法　(1)捕殺する。

No

(2) 除虫菊石鹸合剤、デリス剤、石鹸加用硫酸ニコチン液等を撒布する。

臺灣省農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

キボシホソヘリカメムシ(新稱)

Riptortus pedestris Fabricius

成虫　体は暗褐色又は黒褐色、頭側には黄色の太い1縦線があり、前胸側に2黄紋、中胸側に2箇又は4箇の大黄紋と更に1箇の小黄紋、後胸側に2—3箇の黄色大紋がある。触角は褐色、末節は淡赤褐色、第1—3節の末端が黒色でないことを特徴とするが、或るものでは少しく暗色を呈するものがある。複眼と単眼との間、後頭の紋は黒色。前胸背には多数の黒色小疣状隆起がある。側角は短く鋭く針状に突出する。楯状部の尖端は黄色。頭部、胸部及腹部の下面は黒色。腹側には多数の黄色不整形紋がある。腹背は黒色で、第2,4及末端の大部分は橙黄色を呈する。結合板は黒色と黄色との交互の斑紋を有する。肢は体と同色、後肢腿節の外側の後半に5—6箇の歯状突起があって、末端の2箇は最大である。此の最大歯の間及末端歯の後方に更に3—4箇の微歯がある。体長15mm内外。

経過習性　年何回の世代を有するか不明。成虫は周年見られ、稲葉に居るのを見るが、極めて稀で、普通は豆科植物にあって養分

を吸收して生活してゐる。稻に於ける被害は極めて輕微であるが、荳類の場合は嫩葉であると葉柄より養分を吸收せらるゝ爲めに萎凋して枯死する場合がある。未だ大発生を聞かない。

加害植物　主として荳科作物、稻、麥粟。

分布　台灣、印度、セイロン、ビルマ。

驅除豫防法　(1)　成虫及び幼虫を捕殺する。

(2)　除虫菊石鹼合劑、デリス劑、石鹼加用硫酸ニコチン液等を撒布するがよい。